

主題	IPadによる新しい情報共有
副題	「時間」の有効な使い方～「やらなければならないこと」を「やりたいこと」へ

情報共有	業務改善（介護負担軽減）	研究期間	7ヶ月
------	--------------	------	-----

事業所	特別養護老人ホーム 原町ホーム		
発表者：小林 あゆみ（こばやし あゆみ）	アドバイザー：		
共同研究者：河野 雄太・飯島 一徳・小林 未果			

電話	03-3359-5651	E-mail	haramati-k@douen.jp
FAX	03-3359-5520	URL	http://www.douen.jp/index.html

今回発表の事業所やサービスの紹介	<p>社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会が母体である50床の特別養護老人ホームです。</p> <p>施設のコンセプトは、「やさしさを起点としたパーソンセンタードケアによる安心と信頼のホーム」であり、一人ひとりの心に寄り添う介護を目指しています。</p>
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

一昨年より、新規職員がご利用者様の必要なアセスメント内容について速やかな共有化が困難になり、「知らないこと」によるヒヤリハットの報告回数が増加する状況があった。

対策としてご利用者様個人のアセスメント表を紙ベースにて印刷し職員全員の目の行き届く場所にファイリング(カードインデックス方式)しておいたが、急遽情報が必要になった場合や緊急受診した際にすぐに情報が引き出せないという声も聞かれた。

打開策として常に携帯出来る媒体(IPad)を活用し、情報をどんな状況でも迅速に確認できるようにしていく事が事業所としての課題となった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

アセスメント表を電子化し IPad に入れ日中・夜間帯のリーダーが持ち、確認出来るように改善し、スピード感のある情報共有により適切な介護とご利用者の信頼感の向上を期待し、IPad 活用型情報共有に取り組んだ。

① アセスメント表の情報共有

ヒヤリハット減少を目的とし、排泄介助・入浴介助・食事介助時のご利用者様個別の情報をその都度確認し、介助者として最新情報に基づく正しい対応を提供していくようにする。

② 現在の利用者様の状態に関して

ご家族来園時、居室担当者以外がご利用者様の全身状態の説明を行う際に、職員誰でもご家族に適切に状態を報告出来るようにする。また、緊急受診時にドクター・救急隊にご利用者様の既往歴等介護員室に行き PC を開かなくても直ぐに報告出来るようにする。

《3. 具体的な取り組みの内容》

1. iPad を導入する為、Wi-Fi の設置
2. iPad を導入するための推進リーダーを設置。

iPad 内に転送する内容を決定する。また、推進リーダーが使用方法を熟知する。

3. 推進リーダーより各職員へ周知
 - ① 推進リーダーがアセスメント表等の見直しを行う。
 - ② 推進リーダーより各介護職員へ iPad の使用方法を伝達・周知する。(最初に日中・夜間リーダーになる職員へ周知)
 - ③ 通常業務内での使用を実際に開始し、メリット・デメリットの報告を推進リーダーまで報告してもらう。
 - ④ 推進リーダー内で再検討し、改善案の周知を行う。

4. iPad を使用する対象職員数
介護職員：17名(日中・夜間リーダー)

5. 導入までの時間・期間
1～3月：推進リーダーで準備
4月：本格的に導入開始。
6月：使用続行中。

6. 導入に必要な物品
iPad Wi-Fi 64GB (第3世代)
：2台×¥60,480
iPad mini Retina ディスプレ 64GB
：1台×¥63,504
BUFFALO 無線 LAN (Wi-Fi)
：3台×¥10,265

合計金額：¥215,259

《4. 取り組みの結果と考察》

今回の取り組みの結果として、アセスメントを共有出来ていないことが原因となっているヒヤリハットの減少につながった。

また、以前ご家族よりご利用者の情報が共有できていないとお言葉頂きましたが、現在ではどの職員も現在の個別状況を説明する事が出来、救急搬送時なども同様であった。加えて介護員室まで戻って確認していた情報が iPad を使用したことにより迅速に提供され介護負担の軽減が達成出来た。

《5. まとめ、結論》

アセスメント表を電子化し iPad に入れ日中・夜間帯のリーダーが持ち、確認出来るように改善したことにより、スピード感のある情報共有により適切な介護・ご利用者の信頼感の向上に繋げることが出来た。

このような IT 機器の駆使により介護職員にとって必須であった「介護員室まで戻り PC を開き情報を確認する」動作にかかる時間を大幅に減少し、その時間を利用者様とゆっくりお話しする等の時間に当てることが出来た。このような「やるべきこと」を「やりたいこと」へ変えられるようさらに推進していきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

利用者様のアセスメント表(個人情報)を保護する為に一般職員へ iPad の使用法は限定して伝達し、情報管理に関しては推進リーダーのみに伝達するようにし保護している。

また、上記管理以外は iPad 本体の Wi-Fi 設定を OFF にして職員に iPad を提供するようにした。(ネット環境に繋がないようにする)

《7. 参考文献》

なし

《8. 提案と発信》

介護ソフトの機能だけに頼らず現場の職員の本当に必要な情報を独自に iPad にまとめ機能的に使いこなすことで今までに作れなかった「時間」を生み出し活用することが出来た。

今後も小さな気づきを大きな取り組みに変化させられるよう、時代や社会背景を意識し施設・利用者のみならず地域社会と共に歩んで行きたい。

【メモ欄】